

# 令和6年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 門司中央 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 児童質問調査

児童質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3観点のうち、「読むこと」の内容の正答率が高い。
	よくできた問題	登場人物の相互関係や心情などについて、描写をもとに捉えることができるかどうかをみる問題
	努力が必要な問題	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題
算数	全体的な傾向や特徴など	・「変化と関係」領域である速さ・道のり・時間を求める問題において正答率が高い。 ・「数と計算」「データの活用」の領域において、正答率が全国平均よりやや低い。
	よくできた問題	速さの意味について理解しているかどうかをみる問題
	努力が必要な問題	示された情報をもとに、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
<p>・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問に対して肯定的回答をした児童が80%を上回っている。算数科の学習を中心に、話し合い活動を取り入れ、クラス全体で課題を解決する授業展開をしている成果がでている。</p> <p>・「将来の夢や目標をもっていますか」に対する肯定的回答が90%を上回っている。6年生では、キャリア教育や中学校と連携した交流活動を行っている。今後も継続して行い、子どもたちに自分の将来について考える機会を設定していきたい。</p> <p>・「一日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム（携帯式のゲーム・スマートフォンを使用したものを含む）をしますか」「一日あたりどのくらいの時間、SNSや動画視聴をしますか」の質問に対して、「2時間以上」と回答した児童が半数いた。テレビゲームや動画の長時間の視聴は、睡眠不足等、生活習慣の乱れを招きやすいので、これからも学級活動や養護教諭を中心とした保健指導の中で啓発していきたい。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・基礎基本の学力の定着を図るために、朝自習の時間を利用し算数・国語の既習学習を繰り返し取り組む。また、ICTを効果的に使用し学習効果を高める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の充実に向け、家庭学習の内容や質についての検討を行う。家庭学習マニュアルを配布し、自主学習の仕方を具体的に紹介することで、自分で計画的に取り組める力を高めていきたい。また、テレビゲームや動画視聴の長時間の使用は、視力の低下・生活習慣の乱れを起し、心身の成長にも影響を与えるため、学級活動や養護教諭を中心とした保健指導の中で啓発していきたい。